



第67号(令和元年12月号)

発行所
社会福祉法人
上横山福祉会

〒834-0023

福岡県八女市馬場6番地1

TEL 0943-30-3001

FAX 0943-30-3003

発行責任者 國芳 雅広

「新しい時代に向けて」

蓮の実団地 施設長 田川 晴基

暖冬とは言え、やはり季節柄寒い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

上横山福祉会が平成30年4月に新しい土地へ移転した翌年に天皇が譲位され、年号が平成から令和となりました。新しい時代の幕明けです。

上横山福祉会は昭和40年の設立以来、障害者福祉の分野では入所施設「蓮の実園」、「蓮の実団地」が運営の中心でしたが、その後の時代の流れやニーズの変化に伴い在宅福祉サービスの分野にも力を入れ、グループホーム11ヵ所、相談支援と療育支援を行う「よろず屋」、障害者の地域での生活を支援する拠点事業所「すいれん」、障害者就業・生活支援センター「デュナミス」、通所施設(多機能型事業所)「ワークスペース蓮」といった事業所を展開してきました。最近では、在宅関係の事業所に直接採用される職員も相当数いますが、やはり各事業所で責任ある立場の職員は、長年入所施設で利用者と寝食を共にし、障害者のいろんなケースに対応し、経験を積み重ねてきたベテランばかりです。

入所施設(施設福祉)から在宅福祉への大きな分岐点は、1981年(昭和56年)の「国際障害者年」や1983年からの「国連障害者の10年」であり、そこで唱えられたノーマライゼーションの思想(理念)です。障害者を徒に入所施設に閉じ込めるのではなく、可能な限り一般社会で普通の暮らしができるように努力することは全く正しいと思います。ただ、そのような流れの中でもなお、入所施設の必要性は現実としてあり続けています。また、ノーマライゼーションの考え方とは一般的には対立する保護主義(パターナリズム)の考え方も、障害者(特に知的障害者)の支援の場では必要であると考えます。ノーマライゼーションが障害者の自立を目指すものであるならば、一時的には本人の意思に反してでも保護的な関りをすることによってむしろ本人の自立が促進される場合があります。それは必要な保護主義であり、決してノーマライゼーションと対立するものではないはずです。日々の業務の中で、そのような事例はたくさんあります。もちろん、自立を阻害する「過保護」はいけません。現場で支援に携わる職員は、理屈ではなく体験的にその辺のことを心得ています。しかし、本当は現場の業務を基礎づけるためにも理論的な整理、構築は必要なことであります。

さらに、当法人では、利用者支援の基本的視点として(ドイツの哲学者カントからの借り物ではありますが)、「利用者の人格を

目的自体として尊重し、決して他の如何なる目的の手段として用いない」ということを挙げています。ひとりで言うと利用者本位ということですが、一見して立派な支援であっても、それが本人自身のためではなく、支援者個人や組織の実績が第一の目的であるとすれば、それは真に正しい支援とは言えないからです。

上記の観点から法人、施設運営をしてきた中で、私たちはノーマライゼーションの理念を、正しく、基本的な考え方であると認めながらも、入所施設と地域・在宅福祉を対立する概念、サービスの在り方としてとらえるのではなく、入所施設はあくまでも地域における施設であり、(知的)障害者の立派な生活形態の一つであると見なしています。そして、ある程度の規模を有する入所施設では、人的・物的資源に恵まれていることもあり、他のサービスを展開する場合の拠点としての役割も果たせます。従って、上横山福祉会は、今後も地域のニーズがある限り、在宅部門だけでなく入所施設の運営にも、Q.O.L.の向上を目指しながら力を注ぐべきであると考えています。

少し、理念的な話に偏ってしまいましたが、現実には施設長である私自身の資質の問題、潤沢とは言えない施設運営費、諸規定の不整備、その他多くの課題を抱えて日々業務を行っています。また、社会福祉法人の在り方が問われている今、障害福祉だけでなく、如何にして地域に貢献できる法人であるか地域の他の法人と連携して活動が続けているところです。

このような中、私事ではありますが、定年により本年度末をもって退職します。昭和から平成、そして令和にわたり上横山福祉会に育ててもらい、支えてもらったことに心より感謝しております。さらに新しい土地に移転を果たし、新しい施設で2年間仕事をさせてもらったことは、本当に幸せなことでした。

令和2年4月より新しい施設長、新しい役付体制のもと蓮の実団地が運営されていきますが、これまでの法人、施設の歴史と伝統を大切に、利用者支援の本質を見失わないようにして新しい時代に添えていって欲しいと思います。國芳雅広法人理事長の掲げる「不易流行」の運営理念のもと、前進し続けてください。

最後になりましたが、40年の永きにわたり、本当にありがとうございました。

合掌

※執筆者の意向により、「障がい」の表記を「障害」としています。

第2回 蓮の実フェスティバル

らいじょうありがと

らいねん

たくさんご来場有難うございます。来年もまたきてください。



蓮の実作品展(12/5～12/8)



サイクルパーク



こうほうだいじょうぶ
後方大丈夫かな？

サマーレクリエーション



おももの
大物どこかな？



さいこう ゆ
最高の湯

ひがえ りょうこう
日帰り旅行

あそ
阿蘇ファームランド



だい かい

たいかい

第39回ときめきスポーツ大会



の う りょう かい 納涼会



り ょう しゃ りょ こう 利用者旅行



あそ 阿蘇ファームランドで オルゴール作り



ぶどう持ち



せつめい
説明を聞いて...



じょうず
上手に持てるかな～？



おいし～い♡



ゲット👍🌟

ときめきスポーツ大会



グループホームの集いに参加しました

12月8日の日曜日「第7回グループホームの集い」が開催されました。
 今回は黒木町にある八女市大淵体験交流施設「げんき館おおぶち」で開催され、
 当法人11カ所のグループホームからは40名の方が参加されました。



～グループホームの集い～

八女市と八女地区障害者基幹
 相談支援センターリーベル、
 八女地区のグループホームが
 企画、運営を行い、グループ
 ホーム利用者の交流や活動の
 機会として、毎年開催してい
 ます。

「童衆」のパワフルな太鼓の演奏でみなさん元気に(〇〇)／

「歌声エクササイズ」や「日向ひょっとこ踊り」では、みなさん一緒に参加され

風が冷たく寒い日でしたが、会場は熱気でポカポカ、大盛り上がりでした。

また、来年が楽しみです(*^^*)



八女地区障害者地域生活支援拠点センター すいれん

すいれんの機能整備として、地域移行を目的にした体験の場
 ・機会を試行的に実施します。障がいのある方で、一人暮らし
 の体験を希望される方は、先ずはご相談下さい。

八女市・筑後市・広川町
 モデル事業

親元から離れて暮らしてみたい
 一人暮らしのチャレンジをしたい

1日1,500円(家賃・光熱水費込み)
 30日利用可

常時の連絡体制確保

1泊2日からでもOK

問い合わせ先

0943-30-3110

(平日9時～17時まで)

担当:大池、野中

民間の賃貸物件を活用しての体験
 テレビ・冷蔵庫などの家電等を常設

障がいのある人
 一人暮らしの体験

体験の場

令和2年1月9日～受付開始

体験の場所: 八女市内

※民間アパートの一室

上横山福祉会 動静

(令和元年8月～令和元年11月まで)

法人への寄付

- ・吉田胃腸内科クリニック 院長 吉田 光 様
- ・長岡 亮 様
- ・福岡市城南区片江校区
民生委員児童委員連絡協議会 様
- ・株式会社 フクシマ 代表取締役 福島正志 様
- ・蓮の実フェスティバル開催にあたり、多くの皆様にご厚志を頂き、有難うございました。

蓮の実園への寄付

- ・蓮の実園 家族会 様

蓮の実団地への寄付

- ・西日本鉄道株式会社 様
- ・野田 満子 様
- ・横山 緑 様
- ・安川 美佐子 様
- ・米倉 政治 様

入退所状況

【蓮の実園】

(入所者)

- ・令和元年9月 1日 男性1名
- ・令和元年9月13日 女性1名

(退所者)

- ・令和元年8月23日 女性1名(ご逝去)
- ・令和元年10月13日 男性1名(ご逝去)
- ・令和元年10月31日 男性1名(グループホーム移行)

【蓮の実団地】

(入所者)

- ・令和元年8月21日 男性1名

(退所者)

- ・令和元年10月31日 女性1名(グループホーム移行)

ありがとうございます



(順不同)



【ワークスペース蓮】

(利用開始)

- ・令和元年8月6日 男性1名

(利用終了)

- ・令和元年11月30日 男性1名(一般就職)

職員動静

【採用】

(蓮の実園)

- ・支援員 中尾 純美江 (令和元年10月1日付)
- ・看護師 原野 由紀子 (令和元年10月1日付)
- ・支援員 金納 理乃 (令和元年10月15日付)

(蓮の実団地)

- ・支援員 石橋 久美 (令和元年9月1日付)

【退職】

(ワークスペース蓮)

- ・職業指導員 田中 雄介 (令和元年11月30日付)

行事予定

【蓮の実園】

- 1月 書初め
- 2月 豆まき
- 3月 春の健康診断、花見、バイキング

【蓮の実団地】

- 1月 福岡県まごころ製品大規模販売会外出
施設内成人式、正月遊びの会
- 2月 新春の集い、観梅会
- 3月 春の健康診断、自治会選挙

【ワークスペース蓮】

- 1月 福岡県まごころ製品大規模販売会
- 2月 新春の集い、火災避難訓練、節分
- 3月 春の健康診断(団地入所者のみ)、企業見学

苦情受付

蓮の実園 0件

蓮の実団地 5件

対応: 職員の傾聴にて納得される。

ワークスペース蓮 0件



NEW FACE

蓮の実園 支援員

中尾 純美江

趣味: 買い物・ドライブ

ひとこと: 施設勤務は初めてで戸惑う事も多かったですが、利用者の方や職員の方が温かく受け入れてくださり、楽しく仕事が出来ています。早く仕事に慣れ、皆さんの役に立てるように頑張ります。



蓮の実園 看護師

原野 由紀子

趣味: ウォークラリー

ひとこと: 慣れるまで色々とお迷惑をおかけしますが、一生懸命頑張るのでよろしくお願いします。



蓮の実園 支援員

金納 理乃

趣味: テレビ鑑賞

ひとこと: 入社して日が浅いですが、これから頑張っていきますのでよろしくお願いします。



蓮の実団地 支援員

石橋 久美

趣味: フラワーアレンジ・押し花
紅茶づくり

ひとこと: 人と人とのつながりを大切にしていきたいと思っています。頑張っていきますのでどうぞ、よろしくお願いします。



編集後記

「問題ばかり見ていると答えが目に入らないだろう。問題を見ずに私を見ろ。」

1998年ロビン・ウィリアムズ主演の映画『パッチ・アダムス トゥルー・ストーリー』の一場面の台詞です。精神科病棟に入院中のアダムスが、ある患者から4本の指を突きつけられ「何本に見える?」と質問され「4本」と答えるが「違う」と言われてしまう。アダムスは指をじっと見つめ「8本」と答える。その時にその患者から言われた一言です。

大事なのは質問者が投げかけている問題の本質。問題はきっかけに過ぎず、問題解決の糸口は対象にあるということです。私達は「人」と向き合って仕事をしています。時々忘れてしまいがちですが、決して忘れてはならないと思います。

文責: 樋口 由美子